



哲学があなたを創る

What we think We become

永田円了

哲学というと何か難しい学問、というイメージが湧く。しかし哲学とは、“言葉によってものごとの本質をとらえていく営み”、と解釈するなら、私たちも日常で取り組んでいることである。

仕事とは何か、結婚とは一体自分の人生にとってどういう意味をもつのか、などその本質を言葉という考える道具をもって突き詰めていくプロセスだと定義すれば分かりやすい。

哲学の語源は、英語で philosophy、ギリシャ語の愛する (philo) と智 (sophia) が合体してできたコトバである。明治時代に思想家・西周 (にしあまね) によって翻訳されたものである。

仏哲学者パスカル曰く、「人間というものは、考えるために創られている。考えることこそ、人間の尊厳のすべてである」と。ではなぜ“考えること”が人間にとってそんなに大事なことになるのか？

私たちの行動の源は、詰まるところ“考えること”からきているからである。それは、空に雲があるから雨になるように、雲 (思考の源) が、雨 (行動) を生み出すからである。

スティーブ・ジョブズの哲学

ジョブズは、50歳のとき米国スタンフォード大学の卒業式に招かれ、2万人の聴衆を前にスピーチをした。このスピーチにジョブズの人生のすべてが物語られている。ポイントは二つである。



一つは、ジョブズは人生の全ての体験を点と捉えた。過去を振り返り、たとえそれがどのようなことであろうとも、振り返って見たときに全てが繋がりをもって今の自分を創っている、という気づきである。

ただし点を生きている最中には、将来その点がどのような繋がりをもって現れてくるのかは、分からない。要はその時を懸命に生きよ、ということを力説したのである。

二つめは、死の宣告をうけたお陰で、大きな選択ができたこと。プライドや恥や失敗や恐れも、死の前ではどうでもいいこと。本当に大事なものだけが残る、という気づきであった。ジョブズ自身が臓器移植で死を自覚した経験から得た哲学でもあった。ジョブズは若者に語りかける。自分を生きなさい、他人の評価に振り回されて生きることは止めなさい。人生はそんなに長くないから。

究極の問い“お前は何者か？”

この究極の問いに、あなたはどうか答えるのか。単に名刺の肩書きを取り出して、「私は〇〇会社の営業部長です」「私は住職です」と答えるのか。小学校の卒業作文に将来の夢を書いた。僕は野球の選手、タクシーの運転手 (50年ほど前はこんなのもあった)、私はお嫁さん、などなど。今なら、私は宇宙飛行士という生徒も多くいるだろう。

この講座の締めくくりに、次の答を用意した。お前は何者か？ 何になりたいのか？ はい、私は“わたし自身”になりたいです。たずさわる職業はどうあれ、今の立ち位置で本当のわたし自身になりたいです。この問いが英語で、What are you? から Who are you? に変わったとき、自分の中の“哲学”が、エンバワーし始める。

<事例 DVD>

根本思想 / 山田ズーニー、思いと行動の一致
 哲学者パスカル / 考えることは、人間の尊厳のすべて
 イチロー / 技術より、その人がどう生きているか
 スイッチインタビュー / 村田諒太 vs. 菅野裕人
 NHK きわめびと / 選抜肢よりどう選ぶ
 哲学者カント / ケーキを公平に分けるには
 Steve Jobs / 禅僧になりたい、永平寺へ行かせて
 皇帝ペンギンの行進 / よけいなことを考えない
 玉三郎 / 修行とは、主婦の質問に答える
 Stay hungry, Stay foolish の様々な定義
 篤姫 / 武士の役割とは、水木しげる / 幸福のとらえ方
 龍馬、松平春嶽 / お前は何者か？
 歌・ダイアナ・ロス If we hold on together

